

## 小項目ごとの検証・確認における論点整理

自己評価の区分		判断の目安
IV	年度計画を上回っている	計画の実施状況が100%超
III	概ね年度計画どおり実施している	計画の実施状況が90%超100%以下
II	年度計画を下回っている	計画の実施状況が60%超90%以下
I	年度計画を大幅に下回っている	計画の実施状況が60%以下

## 地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院

項目 No.	H24 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)
02	<p>(2)長時間勤務の改善等働きやすい環境の整備より質の高い医療を安定的に提供するため、医師・看護師職員をはじめとする医療職の必要数確保及び定着を図る。</p> <p>特に医師の勤務条件を緩和するため、医師確保と医師定着化の対策を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>下呂温泉病院勤務医師や岐阜大学地域医療医学センター医師等が地域の教育研究を实践する場として設置した地域医療研究研修センターにおいて、地域医療を志す医師の養成</li> <li>優秀な医師を確保するため、医師の給与面での優遇措置</li> <li>岐阜県及び圏域市町村と連携した医師確保に向けた様々な取り組み</li> </ul> <p>・定年を迎えた医師のうち、質の高い医療の提供に寄与すると認められる者の再雇用</p> <p>・インターネットや医学専門誌などのメディアの積極的活用による医師の公募</p>	<p>平成23年度に年俸制の雇用制度を構築したが、平成24年度も引き続き県及び下呂市と連携して年俸制による医師2人を雇用し、産婦人科部門の体制維持を図った。</p> <p>平成24年度から皮膚科の常勤医師を医師募集エージェントの紹介で確保した。</p> <p>平成22年度から定年を迎えた病理医師を1年契約で再雇用しており、平成24年度も引き続き雇用し、病理診断部門の体制維持を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医師募集エージェントへの登録（インターネットの活用）</li> <li>5社に募集情報を登録</li> <li>特定の診療科目だけではなく、医師確保ということで幅広い科目の医師に対して情報提供を依頼し、医師確保の活動を実施した。</li> </ul>	IV	<p><b>評価の検討</b></p> <p><b>IV→III</b></p> <p>医師確保の取り組みについては努力が認められるが、年度計画を上回っているとはいえない。</p> <p><b>IVのまま</b></p> <p>年俸制や再雇用制度の継続、非常勤医師の活用により医師の確保を図っているとともに、皮膚科の医師を確保したことは評価できる。</p>	<p><b>「III」</b></p> <p>年俸制・再雇用制度の継続、非常勤医師の活用、皮膚科の医師の確保などの取り組みについては努力が認められるが、年度計画を上回っているとはいえない。</p> <p>医師募集エージェントの登録など医師の確保に懸命に努力され、皮膚科の常勤医師を確保できたことは大変喜ばしい。引き続き、医師の確保に努め、経営改善に尽力されたい。</p>

項目 No.	H24 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証							
		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)						
	<p>・県民ニーズに柔軟かつ迅速に対応できるよう非常勤医師の活用</p> <p>・看護師負担の軽減とともに高い患者サービスも可能な、7対1看護体制維持に必要な看護師数の確保</p>	<p>非常勤医師による常勤医不在の診療科（小児科、耳鼻いんこう科、眼科）及び常勤医不足の診療科への支援により、地域県民ニーズに対応した医療の確保を図った。</p> <p>診療依頼延べ回数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,689回</td> <td>2,077回</td> <td>1,809回</td> </tr> </tbody> </table> <p>法人化のメリットである弾力的な職員採用を最大限に行い、H24年度中に</p> <p>【正職員】助産師1名、看護師12名（うち2名中途採用、1名転籍）</p> <p>【非常勤】看護師4名、業務補助(看護師)2名を採用し、7対1看護体制の維持に必要な看護師を確保した。</p>	22年度	23年度	24年度	1,689回	2,077回	1,809回			
22年度	23年度	24年度									
1,689回	2,077回	1,809回									
06	<p>(6) EBMの推進</p> <p><u>学会の診療ガイドライン等に基づいたクリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）の積極的な活用に取り組むことにより、医療の質の改善、向上及び標準化を図り、科学的根拠に基づいた医療（EBM：Evidence Based Medicine）を提供する。</u></p> <p>また、電子カルテを中心とする医療総合情報システムをより有効に活用し、医療水準の向上及び診療内容の標準化を進める。</p>	<p>高齢の入院患者・認知症の入院患者が多いなど、クリニカルパスの作成・適用が難しい分野もあるが、パスの活用に取り組んだ。</p> <p>◆整形外科領域 現在は適用されていないが、今後の活用に向けての取組を行っている。</p> <p>◆産婦人科領域 パス見直し数：10件 産婦人科医の交代(H24年1月)を契機に、パス内容の確認、変更を随時行い改善している。</p> <p>◆新生児領域 パス作成数：外来1件、入院4件</p> <p>また、電子カルテ運用においては、診療の標準化を図るためのシステム設定を必要に応じ実施し、医療情報システムの有効活用を努めた。</p>	II	<p><b>評価の検討</b></p> <p><b>II→III</b></p> <p>産婦人科領域ではクリニカルパスの改善により適用率が上昇していることや、内科領域についても新たに2つのパスを作成しており評価できる。</p> <p><b>IIのまま</b></p> <p>産婦人科領域のクリニカルパスの改善や、内科領域についても新たに2つパスを作成するなど努力が認められるが、パス数が少ないことや整形外科領域では適用されていないなどの課題があるため、年度計画どおり実施しているとまでは言えない。</p>	<p><b>「II」</b></p> <p>産婦人科領域のクリニカルパスの改善や、内科領域についても新たに2つパスを作成するなど努力が認められるが、パス数が少ないことや整形外科領域では適用されていないなどの課題がある。</p> <p>クリニカルパスの作成についてさらに努力するとともに、クリニカルインディケーターを導入・公表についても検討されたい。</p>						

項目 No.	H24 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証																																	
		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)																																
		<p>【診療科別クリニカルパスの内訳】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>診療科名</th> <th>パス数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>産婦人科</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>内科</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>整形外科</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> <p>クリニカルパス種類数・使用数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>【産婦人科】</th> <th>H 2 3</th> <th>H 2 4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種類数</td> <td>20</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>使用数</td> <td>174</td> <td>168</td> </tr> <tr> <td>適用率</td> <td>95.6</td> <td>99.4</td> </tr> <tr> <th>【内科】</th> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>種類数</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>使用数</td> <td></td> <td>105</td> </tr> <tr> <td>適用率</td> <td></td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	診療科名	パス数	産婦人科	20	内科	2	整形外科	9	【産婦人科】	H 2 3	H 2 4	種類数	20	20	使用数	174	168	適用率	95.6	99.4	【内科】			種類数	0	2	使用数		105	適用率		100			
診療科名	パス数																																				
産婦人科	20																																				
内科	2																																				
整形外科	9																																				
【産婦人科】	H 2 3	H 2 4																																			
種類数	20	20																																			
使用数	174	168																																			
適用率	95.6	99.4																																			
【内科】																																					
種類数	0	2																																			
使用数		105																																			
適用率		100																																			
16	<p>(2) 多様な専門職の積極的な活用</p> <p>高度な専門性を有する職員を外部から登用するにあたり、その専門性に適した処遇が可能となる人事給与制度の構築に向け検討を行う。さらに高度な専門性を有する職員が定年を迎えた場合の再雇用制度も構築する。</p>	<p>専門性を活かすために、非常勤職員であったあんまマッサージ師を常勤職員として雇用した。</p> <p>また社会福祉士については、職種や専門性から給与制度を検討し、医療職給料表を適用することとした。</p> <p>職員の再雇用については、高年齢者雇用安定法の改正に伴い、病院経営に寄与する職員の再雇用について、人事労務コンサルタント会社と相談を重ねて、再雇用制度を整備した。</p>	III		<p>マッサージ師を常勤雇用し、患者へのサービスの向上を図るなど特色ある取り組みがなされている。継続されたい。</p>																																
18	<p>(2) 地域連携クリニカルパスの整備普及</p> <p>飛騨地域の中核病院として、他の医療機関との機能分担と連携を強化するために、地域連携クリニカルパスの整備に取り組む。</p>	<p>平成22年度から回復期リハビリテーション病院として「東濃西部脳卒中地域連携パス」に参画し、施設基準を取得・運用してきた。平成24年度から中津川市民病院が新たに加わり、名称も「東濃地域脳卒中地域連携パス」と改め運用していくこととなったため、施設基準の変更を行った。</p> <p>また、平成23年4月から「飛騨地域がん地域連携クリニカルパス」とも連携し、飛騨地域におけるがん</p>	III		<p>地域連携クリニカルパスの運用に参加しているものの、実績がないことから、引き続き積極的に取り組まれない。</p>																																

項目 No.	H24 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)
		<p>診療の一貫した運用等に協力している。</p> <p>平成24年4月の診療報酬改定で新設された「緊急患者搬送地域連携受入(紹介)加算」を取得し、他の医療機関と連携している。</p> <p>当院は計画管理病院の転院先となる回復リハビリテーション病院のうちの一つになっているが、患者様の選択に際し、地理的な問題もあり、運用実績はいまのところない。</p>			
19	<p>(3) 地域の介護・福祉機関との連携の強化</p> <p>地域の介護・福祉機関との連携を強化し、介護・福祉機関への患者情報の積極的な提供や、退院時カンファレンスの取り組みの強化等により、医療から介護・福祉へと切れ目のないサービスの提供に努める。</p>	<p>平成24年度は、病棟において主体的に入院早期から退院支援に関する病院内カンファレンスを推進し、在宅退院患者、家族、地域担当者(ケアマネージャー、訪問看護師等)はもとより、施設に戻る患者に対しても、施設職員との情報共有を積極的に行い、ケアの継続につなげた。</p> <p>【22年度】77件 【23年度】56件 【24年度】90件</p> <p>また、皮膚・排出ケア認定看護師による褥瘡ハイリスク患者ケア加算をH25.2.1から算定、適切な褥瘡予防・総合的な褥瘡対策を行った。</p> <p>○継続看護連絡会議の実施</p> <p>退院後も当院通院予定の患者で、継続看護が必要と考えられる患者について、病棟看護師と外来看護師間で患者情報を共有するため、継続看護連絡会議を開催し、外来受診時のフォローにつなげている。</p> <p>従来、外科・内科疾患が主であったが、平成24年度から、小児科、皮膚科の事例件数が増加しており、継続看護の必要性はますます高まっており、医療から介護・福祉へと切れ目のないケアの継続に努めた。</p> <p>・継続看護連絡会議 【22年度】47回</p>	IV		<p>CDKパスなど地域連携への取り組みは評価できる。また、病院内カンファレンス・看護連絡会議の回数も順調に増加しており積極的に取り組みが伺える。</p>

項目 No.	H24 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)
		<p>【23年度】56回 【24年度】77回</p> <p>○CKD予防に取り組む地域との連携 平成19年度から下呂市ではじまった新規人工透析予防のための取り組みに当初から関わり、地域における病診連携の二次医療機関となっている。その後、下呂市のバスが岐阜県のCKDバスとして採用され、県医師会とともに地域県民のために活用されている。 今後も下呂市とCKDについては糖尿病対策と合わせて対策を進めていく。 平成24年には、岐阜県と下呂市・下呂市医師会の共催による地域と医療の連携体制の構築に向けての研修会が開催された。</p> <p>・コメディカルのための腎疾患予防勉強会 【会 場】岐阜県立下呂温泉病院 【開催日参加者】11月28日 45名</p>			
24	<p>(2) 集積したエビデンスのカンファレンス、臨床研修、臨床研究等への活用 <u>集積したエビデンスをカンファレンス、臨床研修、臨床研究等において活用することで、医療の質の向上を図る。特に、地域医療研究研修センターでの調査研究事業において有効な活用を図る。</u> また、病院年報を年1回発行し、その研究成果を岐阜県及び圏域市村の関係機関に提供する。</p>	<p>地域医療研究研修センターでの研究事業として、地域医療にかかるリュウマチ治療についての発表にあたり、当院のエビデンスを提供する等の活用を行った。</p> <p>下呂温泉病院年報第37号を発行し、院内での活用による医療の質の向上を図るとともに関係機関へ配布し、情報の提供を行った。 【配布先】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内、県外医療機関等 延53機関</li> <li>・岐阜県機関、飛騨圏域3市1村 延18機関</li> <li>中津川市、白川町 延 2機関</li> <li>合計 73機関</li> </ul>	II	<p>評価の検討</p> <p>II→III</p> <p>集積したエビデンスを地域医療研究研修センターでの研究事業に活用しており、また、病院年報も発行していることから、年度計画どおり実施している。</p>	<p>「III」</p> <p>集積したエビデンスを地域医療研究研修センターでの研究事業に活用しており、また、病院年報も発行していることから、年度計画どおり実施している。</p>

項目 No.	H24 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証	
		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)
31	<p>(1) 地域医療水準の向上</p> <p>地域医療研究研修センターでは、岐阜大学地域医療医学センター及び岐阜県総合医療センターとの密接な連携のもとに、二次医療圏における医療提供体制の課題と解決策に関する調査研究及び当院を実践フィールドとした地域医療学の研究を行うことで、地域医療を担う医師の養成に取り組む。</p> <p>また、二次医療体制の課題検討のため、下呂市及び中津川市消防本部と当院医師及びコメディカルとの情報交換会を開催し、症例発表や講演会を通じて地域メディカルコントロールの連携強化を図る。</p> <p>平成22年度実績 5回開催 参加者総数287名</p> <p>平成23年度見込 5回開催 参加者総数264名</p> <p>病診連携の推進を目指し、5床の開放型病床を設置し、医療資源の有効活用を図る。</p> <p>また、開業医との情報交換を月1回以上実施するとともに、当院で主催する各種医療研修会等にも開業医を招き、地域全体の医療水準向上に努める。</p> <p>平成23年度見込</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開放型病床導入に伴う準備</li> <li>・下呂市医師会及び下呂市歯科医師会との合意書の締結</li> <li>・登録医の手続き</li> <li>・登録医見込 医科20名、歯科11名</li> </ul>	<p>地域医師会との情報交換会を原則第1木曜日に実施し、地域開業医との連携を図った。</p> <p>また、二次医療体制の課題検討のため、下呂市及び中津川市消防本部との情報交換会を開催。症例発表や講演会を通して地域メディカルコントロールの連携を強化し、地域医療水準の向上に努めた。</p> <p>【情報交換会 開催実績】</p> <p>第1回 H24. 5. 23 出席 63 名 第2回 H24. 7. 18 出席 47 名 第3回 H24. 9. 19 出席 49 名 第4回 H24. 12. 19 出席 40 名 第5回 H25. 2. 13 出席 36 名 計 235 名</p> <p>○開放型病床の導入</p> <p>医療資源の有効な活用と地域連携の更なる推進を目指し、平成23年度に「下呂温泉病院開放型病床実施要綱」等を整備するとともに地元医師会及び歯科医師会等の協力（合意）のもとに31開業医と登録医の認定手続きを交わし運用体制を整備した。</p> <p>平成24年度は、1ヶ月間の開放型病床の利用実績を踏まえ、施設基準の届出が受理され、9月1日から開放型病床5床の運用を開始した。</p> <p>【開放型病床利用実績】</p> <p>24年度 2名 延べ日人数60名(届出前実績)</p>	III		<p>病診連携の推進によって、開放型病床の運用を開始したことは評価できる。</p>



項目 No.	H24 年度計画	年度計画に係る業務実績、法人の自己評価		評価委員会の検証													
		業務実績、 自己評価の説明、特筆すべき事項	自己 評価	論 点	検 証 (案)												
39	<p>(4) 経営効率の高い業務執行体制の確立 経営企画機能を強化することで、経営効率の高い業務執行体制を確立するとともに、職員の意見が反映されやすい風通しの良い組織運営に努め、「企業体意識」の向上を目指す。 また、<u>定年を迎えた職員のうち、病院経営に寄与すると認められる職員を再雇用する制度を整備する。</u> さらに、各種経営分析を行い、その結果を経営に活用できる体制づくりに取り組む。</p>	<p>毎月最終木曜日開催の管理会議に職員の代表者2名がオブザーバーとして参加。必要に応じ行われる労使間の協議会や意見交換会で交わされた業務や経営に関する意見や提案などを病院運営に反映させ、風通しの良い職場づくりに努めた。</p> <p>【労使協議会実施日】8/28, 3/21 【意見交換実施日】12/21, 2/13</p> <p>また、月次決算状況を理事長に提出する時には月次のキャッシュフローを添付し、資金の流れや資金量を常に注視する体制づくりに努めた。</p> <p>定年となった職員については、本人の勤務評価・能力等を考慮した上で、病院経営に寄与すると認められる職員を再雇用する制度を整備した。</p>	II		<p>年度計画どおり、定年を迎えた職員の再雇用制度を整備したことは評価できるが、経営効率の高い業務体制の確立に向けてさらなる取り組みを期待する。</p>												
52	<p>「2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組」で定めた計画を確実に実施することにより、業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、中期目標の期間の最終年度までに、経常収支比率を100%以上及び職員給与費対医業収益比率を60%以下とすることを旨とする。</p>	<p>【経常収支比率】 年度計画の設定比率96.4%に対して決算では94.4%で2.0ポイント計画を下回った。 【職員給与費対医業収益比率】 年度計画における比率73.8%に対し、決算では79.2%と5.4ポイント増加した。医師確保や看護体制の維持のために必要な人件費に対し、それに見合う収益が得られなかったことが増加の要因となっている。 来期以降も引き続き経常収支比率100%以上、職員給与費対医業収益比率60%以下を目指して経営努力を続けていく。</p> <p>経常収支比率・職員給与費対医業収益比率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常収支</td> <td>95.0%</td> <td>93.5%</td> <td>94.4%</td> </tr> <tr> <td>職員給与費</td> <td>71.4%</td> <td>74.4%</td> <td>79.2%</td> </tr> </tbody> </table>		22年度	23年度	24年度	経常収支	95.0%	93.5%	94.4%	職員給与費	71.4%	74.4%	79.2%	II		<p>新病院建設後の経営方針・経営計画を速やかに策定し、赤字改善に向けての積極的な取り組みを進められたい。</p>
	22年度	23年度	24年度														
経常収支	95.0%	93.5%	94.4%														
職員給与費	71.4%	74.4%	79.2%														